

学校関係者評価報告書

学校法人 麻生塾
麻生建築&デザイン専門学校

目 次

I. 学校関係者評価の概要と実施状況.....	- 3 -
1. 学校関係者評価の目的と基本方針.....	- 3 -
2. 学校関係者評価委員出席者名簿	- 3 -
3. 学校関係者評価委員会の実施状況.....	- 4 -
4. 学校関係者評価委員会の実施方法.....	- 4 -
5. 学校関係者評価の評価方法	- 4 -
II. 学校関係者評価委員会報告	- 5 -
1. 重点項目について	- 5 -
2. 基準項目について	- 6 -

I. 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針

1)目的

①卒業生、関係業界、職能団体・専門分野の関係団体、高等学校、保護者等・地域住民などの学校関係者が、麻生建築&デザイン専門学校の自己点検・評価結果を評価することで、自己評価結果の客観性・透明性を高める。

②学校関係者から、学校運営・教育活動の現状における課題について助言を得ることで、学校運営の継続的な改善を図る。

2)基本方針

学校関係者評価は、自己点検・評価報告書を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。

2. 学校関係者評価委員出席者名簿

区分	氏 名	所 属(役職)	出欠
企業	板橋 正志	株式会社 ダイキエンジニアリング 取締役人事本部長	出席
企業	小口 美香	トランスコスモス 株式会社 UES 総括 サービス推進部長	出席
企業	斉藤 義彦	上村建設 株式会社 人事部総務課 部長兼人事課長	出席
企業	高木 秀樹	株式会社 住まいえ 代表取締役	出席
企業	中野 貴嗣	株式会社 九州三田技術コンサルタンツ センター長	出席
企業	福田 哲也	合同会社 if architects 代表社員	出席
企業	松田 淳司	株式会社 ゼネラルアサヒ コミュニケーションデザイン本部 本社制作部部長	出席
企業	山崎 夢子	照栄建設 株式会社 総務部 係長	出席
有識者	井上 勝義	クリエイティブ・ルーム ERNEST 代表	出席
有識者	太田 昌宏	愛知産業大学 教授	出席
高等学校	井土 義徳	福岡県立福岡工業高等学校 校長	出席
地域住民	小林 芳光	博多駅南 2 丁目 4 区 民生委員	出席
卒業生	坂元 初帆	インテリアデザイン科 卒業生	出席
保護者	坂元 美千子	建築士特進科 在校生保護者	出席

※区分別、五十音順、敬称略

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

実施日時:2026年6月12日(金)14:00 ~ 15:30

場 所:麻生塾 福岡キャンパス 7号館 6階 763・764教室 (※一部参加者はオンラインで出席)

4. 学校関係者評価委員会の実施方法

2025年度の活動実績に対し学校関係者評価委員と学校とで十分な意見交換を行い、学校の状況について共通理解を深めた。

自己点検・評価報告書に基づき、基準項目の自己評価結果、課題及び改善策について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- (1)自己評価結果の内容が適切かどうか
- (2)今後の解決方向が適切かどうか
- (3)学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- (4)その他、学校の運営に関する助言

5. 学校関係者評価の評価方法

基準項目の小項目ごとに、自己点検・評価と同じ下記の評価基準によって評価し、基準ごとに自己評価結果が適正であるかどうかを評価した。今回の学校関係者評価では、各小項目の学校関係者評価を自己点検・評価結果と同一の評価として整理している。自己評価結果に対する学校関係者評価の結果は基準項目ごとに表記し、委員からの意見についても取りまとめて記載している。

評価基準

- 3:基準を満たしており、特筆すべき取り組みを行っている
- 2:概ね基準を満たしている
- 1:基準を満たしておらず改善が必要

Ⅱ. 学校関係者評価委員会報告

1. 重点項目について

【重点項目】

① 教育活動の実践と教員の能力開発、及び教育活動の確実な実践を支える教育体制の整備

・育成人材像の実現に向けた教育力向上のための研修受講促進、専門性の深化・担当分野拡大のための能力開発テーマ設定、指導力に応じた向上目標の設定と計画的な研修参加を進める。

② 二級建築士合格実績の維持・向上と一級建築士合格者輩出のための支援体制の整備及び支援対策の情報発信

・一級建築士までのキャリアパスを見据えた支援体制、二級建築士合格に特化したカリキュラム、効率的な個別指導の方法・仕組みを整備し、学習意欲の維持に配慮した教育課程の改善を進める。

【取組み状況及び総括(成果と課題)】

① 育成人材像の実現に向け、教員の教育力向上を目的とした体系的な研修計画を策定し、各教員が能力開発テーマと到達目標を設定した上で、専門性の深化及び担当分野の拡大に取り組んだ。資格取得支援に加え、コミュニケーション力、ディレクション力、リーダーシップ、Excel・プレゼンテーション・マネジメント等の基礎スキルも体系化し、総合的な能力開発を進めている。研修成果は教育実践への反映状況を検証し、次年度の研修計画へ反映する。

② 二級建築士合格実績の維持・向上及び一級建築士合格者の輩出を目的として、資格取得支援体制を計画的に整備した。二級建築士合格に特化したカリキュラム構成のもと、学生一人ひとりの理解度・到達度に応じた個別指導を実施し、合格実績及び学修の定着度向上につなげている。

【総括】

教員研修及び資格取得支援はいずれも一定の成果を上げている。一方、研修成果と学生の学修成果との関連性の可視化、学修負担の偏りや学習進度の個人差への対応は継続課題である。今後も成果の検証を行い、指導方法・支援内容及びカリキュラムの改善を重ねる。

【委員からのご意見】

・在学中から資格取得に取り組むことは企業側から見ても有意義であり、資格そのものに加えて、目標に向かって継続して努力できる姿勢も採用時に評価されるものである。

・資格取得と実務力は同一ではないため、資格学習と並行して基礎的な建築知識、学習習慣、PC 基礎スキル、コミュニケーション力等を育成することが重要である。

・最新技術を取り入れた教育を今後も推進するとともに、AI・BIM・DX コンテンツ等の新たな学習手法については、導入そのものを目的とせず、学習効果を見極めながら適切に活用してほしい。

・学修負担や学習進度が思わしくない学生に対して、早期に状況を把握し、きめ細かなフォローにつなげる仕組みを一層充実させることを期待する。

・制作・設計分野では、プレゼンテーションの説得力を高める手法として、モックアップ制作を活用することも有効である。

・資格取得やコンテスト・コンペティションへの挑戦について、建築系学科での成果を継続するとともに、クリエイティブデザイン学科においても実績向上に向けた取組の充実を期待する

2. 基準項目について

基準 1 教育理念、目的、育成人材像

学校関係者評価結果: 適正

法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を定め、学校構成員に周知を図り、社会に公表しているか。

【取り組み状況】

本校の教育理念及び各学科の教育目標(育成人材像)は「学生便覧(学生のための学校ガイドブック)」に掲載し、キックオフ会議及び非常勤講師会において教職員へ周知している。学生に対しては新入生オリエンテーション及び進級時の就職実務を通じて周知し、学校ホームページでも学内外へ公開している。

DX 推進人材の育成を見据え、AI 活用教育と BIM 教育を段階的に導入している。資格取得支援を中核に据え、コミュニケーション・ディレクション力、リーダーシップ、Excel・プレゼンテーション・マネジメント等の基礎スキルも体系化して強化している。

【課題及びその改善方策】

課題は特にない。引き続き、教育理念及び各学科の教育目標(育成人材像)の学内外への周知を着実に進めるとともに、教育理念と実際の教育活動、学生の成長とのつながりを意識した運営を継続する。

【委員の方からのご意見】

学校の教育理念及び各学科の教育目的・育成人材像を学生便覧や学校ホームページで公表し、オリエンテーション等を通じて学生へ周知している点は評価できる。また、AI 活用教育や BIM 教育を段階的に導入し、育成人材像の具体化につなげている取組についても今後の推進を期待する。さらに、専門性や資格取得とあわせて人間力を高める教育方針は支持できるものであり、GCB 教育やマナー教育は社会に出る前の教育として有効である。一方、人間性教育の成果は校外から見えにくい面もあるため、教育理念が学生の行動や成長にどのようにつながっているかを示していくことが望まれる。また、資格取得を通じて早期に専門職として社会で活躍できる専門学校の魅力について、より積極的に発信することの検討を望む。

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
1-1-1	「学校の教育理念」を定め、学校構成員(すべての教員、職員、学生)及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	2	2
1-1-2	各学科の教育目標(育成人材像)を定め、学校構成員(すべての教員、職員、学生)及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	2	2

基準 2 学校運営

学校関係者評価結果: 適正

- 2-1:学校の教育理念に沿った運営方針を定めているか
- 2-2:事業計画を作成し、執行しているか。
- 2-3:運営組織や意思決定機関は効率的なものになっているか。
- 2-4:人事・給与に関する制度を確立しているか。
- 2-5:情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

【取り組み状況】

- 2-1:法人の理念及び学校の教育理念に基づき運営方針を策定し、キックオフ会議で教職員へ共有している。各会議で内容を再確認し、進捗や運営状況を踏まえて必要に応じた業務見直しを行っている。
- 2-2:事業計画を作成し年度初めに共有するとともに、教務会議で進捗状況を定期的に確認し、計画に基づいた運営を行っている。
- 2-3:法人の運営組織及び意思決定機関は明文化され、階層別・目的別の会議体を通じて法人方針の共有と学校運営への反映を行っている。ICT 及び Microsoft Teams を活用し、会議体の役割明確化、情報共有の効率化、運営プロセスの可視化・標準化を進めている。
- 2-4:法人で整備された就業規則、人事諸規程、給与規程、昇給・昇格制度及び採用規程に基づき、公平性・妥当性を確保しながら適切に運用している。
- 2-5:麻生塾システムにより学籍、出席、成績、生活指導等の教務情報を一元管理し、Microsoft Teams を活用した情報共有とあわせ、業務の迅速化・効率化を図っている。

【課題及びその改善方策】

- 2-1:課題は特にない。今後も、運営方針の確実な遂行を前提に、状況に応じた改善を継続し、円滑で効率的な学校運営を推進する。
- 2-2:課題は特にない。各会議を通じて事業計画の共有と進捗確認を継続し、状況に応じた業務の見直しを行う。
- 2-3:運営組織及び意思決定体制、学校業務を支援する事務組織については、役割分担や情報共有に改善の余地がある。校務分掌や会議体の運営状況、業務負担を点検し、意思決定の迅速化、情報共有の改善、業務プロセスの標準化を進める。
- 2-4:課題は特にない。
- 2-5:課題は特にない。今後も、操作研修や活用事例の共有を継続し、利用状況を定期的に確認しながら ICT 活用の質を高めていく。

【委員の方からのご意見】

運営方針を各会議で再確認しながら必要に応じて業務を見直している点、事業計画を共有し進捗確認を行っている点は評価でき、事業計画については適切に遂行されていると理解できた。また、GCB 教育やマナー教育を通じて学校の理念を教育活動として実践している点について、これを支持する(卒業生、高等学校及び保護者等より)。今後は、DX の視点を活かした業務の標準化・効率化を継続するとともに、学科会議等の現場で出された重要な意見が上位の意思決定で見過ごされないよう情報を吸い上げる仕組みを再確認し、情報の重要度や緊急度に応じた柔軟かつ迅速な意思決定を期待する。人事制度については、公平性・妥当性を確保しつつ、教職員のモチベーションや定着

につながるキャリアパスの明確化を期待する。情報システムについても、操作研修や活用事例の共有を継続し、ICT活用の質をさらに高めることが望まれる。

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
2-1-1	学校の教育理念に沿った運営方針を策定しているか。また、運営方針を教職員に周知しているか。	2	2
2-2-1	運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか。	2	2
2-2-2	事業計画は適正に執行されているか。	2	2
2-3-1	法人の運営組織や意思決定機能は規程等において明確化されているか。また有効に機能しているか。	2	2
2-3-2	学校あるいは部門の運営組織や意思決定機能は明確化されているか。また有効に機能しているか。	2	2
2-3-3	運営会議(教職員会議・教員会議等)が定期的に行われているか。	2	2
2-3-4	学校業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。	2	2
2-3-5	事務職員の意欲や資質・能力の向上を図るための方策を講じているか。	2	2
2-4-1	人事に関する制度を整備しているか。	2	2
2-4-2	給与に関する制度を整備しているか。	2	2
2-4-3	昇給・昇格制度を整備しているか。	2	2
2-4-4	教職員の募集・採用は適切に行われているか。	2	2
2-5-1	情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか。	2	2

基準 3 教育活動

学校関係者評価結果: 適正

- 3-1:教育理念、教育目標(育成人材像)に沿った教育課程を編成・実施しているか。
- 3-2:教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程・教育内容は適切に行なっているか。
- 3-3:教育の評価を適切に行っているか。
- 3-4:成績評価と単位認定を適切に行っているか。
- 3-5:教育活動を確実に実践するために、教育体制の整備を適切に図っているか。また教員の能力開発のための資質向上の取り組みを行っているか。

【取り組み状況】

- 3-1:教育理念及び育成人材像に基づきディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを策定し、学生便覧、オリエンテーション、学校ホームページで周知・公表している。教育課程編成委員会及び学科会議で検証し、実効性を継続的に確保している。
- 3-2:全授業科目のシラバス及びコマシラバスを整備し、授業報告書により実施内容を記録している。教育課程編成委員会を通じて業界ニーズを把握し、PC 基礎スキル、AI 活用教育、手描き製図、BIM 教育、企業・自治体連携、インターンシップ等を体系的に取り入れている。また「就職推進週間」を設け、応募書類指導、面接対策、学内企業説明会等を集中的に実施している。
- 3-3:授業アンケート、ホームルームクラスアンケート、学レポ(満足度:NPS)、授業理解度確認テストを実施し、学生の理解度・満足度を把握して担当教職員へ共有し、授業改善につなげている。
- 3-4:成績評価、単位認定、進級・卒業判定基準を学則及び学生便覧で明示し、教科担当教員・担任・管理職による確認体制を整備している。期末試験受験要件も再整備し、学生・教職員への周知を徹底している。
- 3-5:関係法令に基づき専門性を備えた教員を配置し、校務分掌、非常勤講師会、教務会議、責任者会議、学科会議を通じて連携している。企業等と連携した BIM・業界動向研修、指導力研修、新任教員研修等を計画的に実施している。

【課題及びその改善方策】

- 3-1:課題は特にない。今後も、教職員を対象とした研修や教育実践事例の共有を継続し、ポリシーの理解と教育実践への結び付きを一層強化する。
- 3-2:業界動向の変化が著しい分野において、実務に即した演習や最新技術を反映した教育内容に一部十分とは言えない点がある。教育課程編成委員会等を通じて業界ニーズの把握を強化し、実習・演習内容の見直しや教育内容の更新を進める。
- 3-3:学レポを含む評価データの分析や、授業改善への具体的な反映が十分に定着していない点が課題である。学レポを授業評価の中核的なツールとして位置づけ、結果の集約・分析方法を整理するとともに、会議等を通じた共有や改善方針への反映を進める。
- 3-4:課題は特にない。今後も、評価基準の理解度や運用状況について学生・教職員双方の認識をそろえ、評価結果の点検・改善を継続する。
- 3-5:課題は特にない。学生の多様化や教育内容の高度化に継続的に対応するため、教員の専門性や役割分担の妥当性を定期的に点検し、教員間の連携体制の一層の充実を図る。

【委員の方からのご意見】

教育理念・教育目標に基づく教育課程の編成・実施、シラバス及びコマシラバスに基づく授業運営、教育課程編成委員会を通じた業界ニーズの反映は適切に行われている。今後も教職員向け研修や教育実践事例の共有を通じて、ポリシーと教育実践の結び付きを強化するとともに、実務に即した演習や最新技術を反映した教育内容の充実を期待する。

また、Excel・Word 等の基礎的な PC スキルに加え、AI・BIM 等の新技術を実務に即して教育へ取り入れることが重要である。特に AI については、出力をそのまま受け入れるのではなく、基礎知識に基づいて内容を確認・評価し、自分の考えを加えて活用する力を育成するとともに、情報管理や AI リテラシーに関するルール整備も必要である。さらに、企業見学、現場実習、インターンシップ、企業連携課題等を通じて学校教育と実務との接続を強化し、構成力、問題解決力、企画・提案力等の実践的な能力を育成することが望まれる。学レポ等の評価データについては、授業改善に確実につなげるとともに、教員についても企業連携研修や現場見学、最新技術の共有等を通じて、実務理解や専門性を継続的に高めていくことが期待される。

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
3-1-1	教育目標(育成人材像)に基づきディプロマ・ポリシーを明示し、また学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	2	2
3-1-2	教育目標(育成人材像)に基づき教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)を明示し、また学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	2	2
3-2-1	教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	2	2
3-2-2	業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容(学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保等)が提供されているか。	2	2
3-2-3	専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行っているか。	2	2
3-2-4	授業科目の目標を達成するための授業内容や授業方法になっているか。	2	2
3-2-5	授業及び実習に関するシラバスは作成しているか。	2	2
3-2-6	シラバスに基づいてコマシラバスを作成しているか。	2	2
3-2-7	授業はシラバス及びコマシラバスに基づいて実施しているか。	2	2

3-2-8	専攻分野における実践的な職業教育(インターンシップ、企業等と連携した実習・演習等)を教育課程に体系的に位置づけ、実施しているか。	2	2
3-2-9	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか。	3	3
3-3-1	授業評価体制を整備しているか。	2	2
3-3-2	学生によるアンケート等で定期的に授業評価を実施しているか。	2	2
3-3-3	授業科目の目標に照らし、教育内容・授業方法が適切であるか確認しているか。	2	2
3-3-4	授業評価の結果を教員にフィードバックしているか。	2	2
3-3-5	授業評価の結果をもとに、授業内容・授業方法の改善を図るための取り組みを行っているか。	1	1
3-4-1	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	2	2
3-4-2	学生や保護者等に、成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準、進級要件、卒業要件を適切に明示しているか。	2	2
3-4-3	各規程に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか。	2	2
3-5-1	法令に則り、学校の教育理念・教育目標の達成に必要な教員を確保しているか。	2	2
3-5-2	教員の組織体制を整備しているか。	2	2
3-5-3	教員に必要な知識・技能を身に付け、資質・能力の向上を図るための取り組みを行っているか。	2	2
3-5-4	教員に対して、専攻分野に係る関連分野の企業等と連携して、実務に関する研修・研究に組織的・計画的に取り組んでいるか。	2	2
3-5-5	教員に対して、企業等と連携して、指導力・教授力を習得、向上するための取り組みを行っているか。	2	2

基準 4 学修成果

学校関係者評価結果: 適正

4-1:学科ごとに学生の学修成果を中心とした目的・目標を設定して教育活動を行い、多様な視点から成果の達成状況を把握し、改善に活用しているか。

4-2:卒業生の社会的な活躍および評価を把握しているか。

【取り組み状況】

4-1:二級建築士学科試験 51 名、宅地建物取引士 3 名、インテリアコーディネーター(一次試験)15 名、二級建築施工管理技士 19 名の合格者を輩出した。建築設計競技では知事賞や会長賞を含む多数の入選を果たし、団体賞は 8 年連続で受賞した。久留米市総合美術展でも市長賞や特選など安定した入選実績を維持している。資格取得は教育課程の中で体系的に位置づけ、関連科目、演習、補講、個別指導を通じて到達レベルを段階的に育成している。

就職指導ではオンライン型説明会及びインターンシップを定着させ、採用試験傾向の分析に基づく支援改善を進めている。クラス運営は月次報告により状況を把握し、責任者主導で休学・退学防止ガイダンスを実施している。

4-2:卒業生の就業状況及び勤務先を継続的に把握し、卒業生や就職先からの意見を週 1 回の就職部会で共有して就職指導・教育活動の改善に活用している。卒業生の活動実績も学内イベント等を通じて在校生、保護者及び企業関係者へ周知している。

【課題及びその改善方策】

4-1:資格等の合格実績には年度による変動があるため、模擬試験結果の分析を充実させ、学生一人ひとりの理解度・課題を的確に把握した個別指導へつなげる。就職支援についても、個別相談や模擬面接の機会をさらに充実させる。

4-2:課題は特にない。今後も、卒業生の活躍事例を教育内容や進路指導へ効果的に反映し、学修成果及びキャリア形成の可視化に活用する。

【委員の方からのご意見】

二級建築士、宅地建物取引士、インテリアコーディネーター、二級建築施工管理技士等の資格試験や、建築設計競技・美術展等で継続的に成果を上げている点は評価できる。就職支援についても、個別相談や模擬面接等、学生一人ひとりの状況に応じたきめ細かな支援を継続してほしい。建築系学科に加え、クリエイティブデザイン学科についても資格取得やコンテスト・コンペティションへの挑戦に一層力を入れ、実績向上を図ることを期待する。また、卒業生や就職先からの意見を教育・就職指導へ活用し、卒業生の活動実績を在校生、保護者、企業関係者へ周知している点も評価でき、今後も卒業生の活躍事例を教育活動や進路指導へ効果的に反映することが望まれる。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
4-1-1	就職率・就職者の割合の向上の取組みを行っているか。また結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか。	2	2
4-1-2	退学率の低減が図られているか。また結果を分析し、退学率を低減させる取組みを行っているか。	2	2
4-1-3	資格取得率、公務員合格率及びコンテスト・コンペ入選数の向上の取組みを行っているか。また結果を分析し、教育活動及び学生支援の改善を図っているか。	2	2
4-1-4	資格取得等に関する指導体制及びカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	2	2
4-2-1	卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への効果を把握しているか。また、それを踏まえ教育活動等の改善を図っているか。	2	2

基準 5 学生支援

学校関係者評価結果: 適正

学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか。

【取り組み状況】

学生支援部門と連携し、入学前から卒業後まで、経済的支援、健康管理支援、就職支援、生活支援、修学支援、社会人学生支援、課外活動支援を組織的に実施している。特待生制度、進級支援制度、学費分割納入制度、高等教育の修学支援新制度等により修学継続を支援している。

健康管理では年間計画に基づく健康診断、未受診者・再検査対象者への受診勧奨を行い、留学生については入学前ガイダンス時に胸部 X 線検査を実施している。

生活支援では直営寮・提携寮に寮監を配置し、Teams を活用して寮監・学生・学生寮担当者間で連絡を密にしている。修学支援ではガイダンス記録等を活用して留年・休退学の状況を把握し、支援を必要とする学生への個別対応、入学前教育、補習教育を実施している。

保護者等とは学習・生活状況を共有し、必要に応じて三者面談を行うなど、学生の学修継続に向けて協働する体制を整えている。入学前には GCB 教育動画や展示会見学、入学後には数学ゼミ等を実施し、専門教育への円滑な移行を支援している。

【課題及びその改善方策】

課題は特にない。今後も、学生の多様な背景や支援ニーズの変化に対応するため、各支援内容の効果検証を定期的に行い、社会人学生や課外活動への支援を含めた好事例を共有し、支援体制のさらなる質的向上と安定的な運用を図る。

【委員の方からのご意見】

経済的支援、健康管理、生活支援、修学支援等の各種支援制度を維持し、組織的に運用している点は評価できる。特に、自宅を離れて一人暮らしをする学生の保護者からは、健康管理や学修継続を支える取組について感謝と支持が示され、体調不良時に担任が寮まで様子を確認した事例についても、学校の見守り体制と手厚い支援を高く評価する。今後も支援内容の効果検証や好事例の共有を進め、多様化する学生の状況に応じた支援体制の質的向上を期待する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
5-1-1	学生の就職・進路支援を適切に行っているか。	2	2
5-1-2	学生相談に関する体制を整備しているか。	2	2
5-1-3	学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運営しているか。	2	2
5-1-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	3	3
5-1-5	学生の生活環境への支援を行っているか。	3	3
5-1-6	保護者等との連携を適切に行っているか。	2	2
5-1-7	学生の課外活動に対する支援を適切に行っているか。	2	2
5-1-8	社会人学生への支援体制を整備しているか。※	2	2
5-1-9	学生に対する修学支援体制を整備しているか。	2	2
5-1-10	入学前教育や学力不足を補う補習教育などの学習支援を行っているか。	2	2

※社会人学生とは、学生のうち、職に就いている者（給料、賃金、報酬、その他の経常的な収入を目的とする仕事に就いている者）をいう。

基準 6 教育環境

学校関係者評価結果: 適正

6-1:教育運営に支障を生じさせないように教育設備を整備しているか。

6-2:教育環境を適切に維持しているか。

【取り組み状況】

6-1:学生数の動向に応じて教室計画を合議し、専修学校設置基準等を遵守した施設・設備の点検・補修、ネットワーク設備の計画的整備、機材・備品の棚卸及び更新を進めている。図書室では建築分野を中心とする専門図書を計画的に整備し、学生の主体的な学修を支援している。

6-2:実習前研修やインターンシップ保険加入証明書の発行等、安全管理に必要な指導・書類準備を行った上で、企業と連携した学外研修、現場見学・体験、インターンシップを実施している。入学後オリエンテーションで避難経路・避難場所を確認し、通報訓練等を通じて緊急時対応体制を整えている。

【課題及びその改善方策】

6-1:課題は特にない。今後も、教育内容の高度化や学修形態の多様化に対応するため、施設・設備の利用状況や教育効果を定期的に検証し、中長期的な設備更新計画の精緻化を進める。

6-2:課題は特にない。今後も、インターンシップ実習をはじめとした学外活動について、安全管理手順の整理と共有方法の標準化を進める。

【委員の方からのご意見】

図書室に専門図書を整備し、学生の主体的な学修を支援している点は評価できる。また、学外研修、現場見学、インターンシップ等を企業と連携して実施し、実践的な学修機会を確保している点も評価できる。今後も、学外活動における安全管理手順の整理を進め、関係教職員間で共有する方法を標準化することを期待する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
6-1-1	教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、維持・管理、安全・衛生を確保しているか。	2	2
6-1-2	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか。	2	2
6-1-3	図書室・図書コーナーがあり、図書館サービスは十分に機能しているか。	2	2
6-2-1	学校における安全管理体制の整備を行っているか。	2	2
6-2-2	定期的に防災訓練を実施しているか。	2	2
6-2-3	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	2	2

基準 7 学生募集

学校関係者評価結果: 適正

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

【取り組み状況】

入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を募集要項及び学校公式ホームページに公表し、定めた選抜基準に基づき公正かつ適切に学生募集・入学者選抜を実施している。オープンキャンパス等では、資格取得状況、就職状況、校納金等の最新情報を正確かつ分かりやすく提供している。

願書受付から選抜試験運営までの業務を麻生塾システムで一元管理し、願書受付マニュアル、当日の役割別マニュアル、事前打合せにより運用を統一している。校納金等についても内容を確認した上で適切に設定し、変更時は募集要項等への正確な反映と関係部署間の情報共有を徹底している。

【課題及びその改善方策】

課題は特にない。今後も、運用面におけるさらなる円滑化と効率化を図るため、選抜業務に関する運用フローを整理・明文化し、非常勤講師を含む教職員へアドミッション・ポリシー及び選抜基準を周知するとともに、会議や Microsoft Teams 等を活用して変更事項を迅速かつ確実に共有する。

【委員の方からのご意見】

麻生塾システムによる入学選抜業務の一元管理や役割別マニュアルの整備等、公正性・正確性を確保する運営体制は高く評価できる。県外の中学校においても麻生塾、学校に関する紹介を目にしたことがあり、県外を含む幅広い地域へ学校の魅力を伝える情報発信の取組みは評価できる。今後も、正確な学校情報の提供と公正な学生募集・入学者選抜の継続を期待する。

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
7-1-1	入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を策定し、学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表しているか。	2	2
7-1-2	募集活動において、教育成果を含めた学校情報は正確に伝えているか。	2	2
7-1-3	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか。	2	2
7-1-4	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。	3	3
7-1-5	校納金(学生納付金)等は妥当なものとなっているか。	2	2

基準 8 財務

学校関係者評価結果: 適正

教育活動を安定的かつ継続的に進めるため、財務基盤が安定し、適正な財務管理、監査の実施及び情報の公開を行っているか。

【取り組み状況】

財務基盤は安定しており、学生に必要なかつ快適な教育環境を提供できる財務体質を備えている。私立学校法及び寄附行為に基づき監事による監査を適切に実施し、貸借対照表、収支計算書、財産目録、監査報告書をホームページで公開している。

事業計画に基づき妥当な予算計画を策定し、教育活動に必要な経費を適正に見積もり、計画に沿って執行管理を行うことで安定した財務運営を維持している。

【課題及びその改善方策】

課題は特にない。

【委員の方からのご意見】

事業計画に基づく妥当な予算計画と執行管理、監査及び財務情報の公開が適切に行われている点は評価できる。定員充足率の数値だけを特別視するのではなく、実際の在籍学生数に対応した適切な教育と学校経営が行われているかを見ることが重要であり、必要に応じて実態に合った定員設定を検討することも一つの考え方である。

現状の学校経営が適切に行われていることについては理解を得られている。

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
8-1-1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。	2	2
8-1-2	予算計画は有効かつ妥当なものとなっているか。また事業・予算計画に基づき適正に執行管理されているか。	2	2
8-1-3	私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか。	2	2
8-1-4	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか。	2	2

基準 9 法令遵守

学校関係者評価結果: 適正

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正に学校運営を行なっているか。

【取り組み状況】

法人の法務担当部門及び学事担当部門と緊密に連携し、専修学校設置基準をはじめとした関係法令を遵守して適正な学校運営を行っている。学内規程を整備し、学生便覧を通じた周知により法令違反の未然防止を図っている。

教職員には個人情報保護、ハラスメント防止等の法令遵守研修及び危機管理研修を計画的に実施している。また、ヒヤリハットや事故報告に基づく調査・報告及び再発防止策の検討を行い、組織的なリスクマネジメント体制を構築している。

【課題及びその改善方策】

課題は特にない。今後も、再発防止策の実施状況や効果をより体系的に確認するため、ヒヤリハット及び事故報告に基づく対応状況を定期的にモニタリングし、リスク対応の好事例や留意点を全教職員で共有する。

【委員の方からのご意見】

関係法令や専修学校設置基準に基づく学校運営、学内規程の整備、教職員研修、ヒヤリハット・事故報告に基づく再発防止策の検討等、組織的なリスクマネジメントの取組は適切であり、理解及び支持できるものである。今後も対応状況の定期的なモニタリングや好事例・留意点の共有を継続し、法令遵守及びリスクマネジメント体制をさらに充実させることを期待する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
9-1-1	法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	2	2
9-1-2	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか。	2	2
9-1-3	法令遵守違反等に対応する体制を整備しているか。また、法令遵守等に関する研修・教育を行っているか。	2	2

基準10 内部質保証

学校関係者評価結果: 適正

教育の質を保証する仕組みを構築し、教育内容等について自己評価を行い、課題解決に取り組んでいるか。また、教育情報を積極的に公開しているか。

【取り組み状況】

麻生塾全体の自己点検・評価実施体制及び評価項目を定期的に見直し、教育内容・学校運営について自己点検・評価を行い、課題の把握と改善に継続的に取り組んでいる。学校関係者評価委員会を年 1 回、教育課程編成委員会を年 2 回開催し、外部関係者から教育活動及び学校運営に関する意見を収集するとともに、前年度の改善事項について改善状況を報告している。関連資料は Microsoft Teams 上で共有・保管し、教職員が確認できる環境を整備している。教務会議を通じて自己点検・評価の取組を促し、各学科会議において実施・進捗確認を行い、学科内外で横断的に情報共有している。

【課題及びその改善方策】

自己点検評価の付け方、結果分析、改善事項の実行状況等について、運用面に改善の余地がある。進捗管理の方法や確認手順を明確化し、教務会議等を主軸に改善状況・効果を定期的に確認することで、組織的な内部質保証の実効性を高める。

【委員の方からのご意見】

自己点検・評価、学校関係者評価、教育課程編成委員会を継続して実施し、教務会議や学科会議を主軸に改善状況の確認と情報共有を進める方向性は適切である。自己点検・評価に記載された「運用面の改善の余地」について、具体的に何を改善するのかを明確にし、進捗管理の方法や確認手順を含めた改善策へつなげることが望まれる。あわせて、学レポ等の評価ツールについても、実施すること自体を目的とせず、結果を実際の授業改善サイクルへ確実に組み込むことを期待する。

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
10-1-1	学校教育、学校運営について、組織的に自己点検・評価を実施しているか。	2	2
10-1-2	自己点検・評価の結果に基づき、学校教育と学校運営の質の改善と向上のための取組を組織的に、積極的かつ継続的に行っているか。	2	2
10-1-3	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施しているか。	2	2
10-1-4	学校関係者評価結果をもとに改善の取組を行っているか。	2	2
10-1-5	自己点検・評価及び学校関係者評価の結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。	2	2

基準11 社会貢献・地域貢献

学校関係者評価結果: 適正

公共的な機関として、資源を活用して社会的な活動や地域貢献活動を行っているか。

【取り組み状況】

学内建築サークル「GROWTH」を中心に、学校周辺の清掃活動、「ラブアース・クリーンアップ」、地域商店街のイベントボランティア等へ継続的に参加している。これらの取組を通じて、学生の社会貢献意識や協働意識を育成するとともに、地域との良好な関係構築を進めている。

地域商店会のイベント協力や博多区の PR 活動等、学校の教育資源を生かした地域連携にも取り組み、地域貢献活動を教育活動の一環として位置づけている。

【課題及びその改善方策】

課題は特にない。今後も、地域貢献活動の内容や参加状況を整理・記録し、活動を通じた学びを教育活動へ還元する仕組みを検討する。あわせて、地域ニーズを把握しながら活動範囲を広げ、地域連携及び課外活動のさらなる充実を図る。

【委員の方からのご意見】

学内建築サークル「GROWTH」を中心とした地域清掃活動や地域イベント・公民館活動への協力について、地域から感謝と評価が示された。これらの活動が学生の社会貢献意識や協働意識の醸成につながっている点も評価できる。一方、美野島商店会等との連携に加えて、学校周辺の公園清掃など活動範囲をさらに広げてほしい。また、ごみの放置や喫煙等の地域マナーについては、対象者を特定した指導が難しい面もあるものの、継続したマナー指導が重要である。地域清掃やイベントボランティアが学生の社会貢献意識・協働意識の醸成につながっている点が評価できるものであり、地域連携及び課外活動のさらなる充実を期待する。

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
11-1-1	学校の教育資源や施設を活用し、社会貢献・地域貢献を行っているか。	2	2
11-1-2	学生のボランティア活動を奨励、具体的な活動支援をしているか。	2	2

基準12 国際交流

学校関係者評価結果: 適正

留学生の受け入れ、海外への留学における学習支援や生活指導等を適切に対応し、管理体制を整備しているか。

【取り組み状況】

学生の日本語による調整力及びコミュニケーション力の育成を重視し、グループワーク、発表、意見交換を取り入れた授業を実施している。文化や言語差を踏まえながら、報告・連絡・相談や相手の立場を考慮した表現方法を指導し、実務を想定した対話力の向上を図っている。

外国人学生規程を整備し、国際交流センターと連携して在籍管理・ビザ更新を適切に運用している。就職・生活・学習支援の個別強化、渡航留学及びオンライン留学の推進、チャットツールを活用した情報共有等を通じて、学生及び保護者への支援体制を整えている。

【課題及びその改善方策】

課題は特にない。今後も、制度・環境の変化や多様化する学生ニーズに対応し、支援施策の実施状況・効果を定期的に確認しながら、好事例の共有と情報提供方法の改善を進める。

【委員の方からのご意見】

今回の学校関係者評価委員会及び委員アンケートでは、国際交流に関する特段の意見はなかった。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
12-1-1	海外留学プログラムに対する支援を適切に行っているか。	2	2
12-1-2	留学生の受入れ、在籍管理等において適正な手続きを行っているか。	2	2
12-1-3	留学生の学修・生活指導等に対する適切な体制を整備しているか。	2	2

以上